

# 世界で一番 美味しいコロッケ

@Chiba

## 今

号も、わたしが最初に日本に行った時のことを書くように思う。

初めて迎えた東京の冬を、下北沢のアパートで毛布にくるまりながら、なんとかやり過ごした。同じ大都会でも、東京の冬と、わたしがよく知るロンドンのそれとは、寒さの質が異なるように感じた。後者の冬は、鈍く深く、そして長期に人を苦しめるのだが、東京のそれは、短く鋭い。

梅も散り、大都会にもやっと春の気配が漂いはじめたころ、日本でできた友人たちと、旅に出るようになった。だいたい、2泊3日の近場の旅である。東京は、スリリングでエキサイティングなのだが、ずっと居ると息が詰まってしまう。

土曜日の朝早く、内房線で館山に向かった。小さな2階建ての木造家屋が、延々と続くのだが、千葉県の五井を過ぎるころから、列車の右手には東京湾が

望め、左手には冬枯れした田んぼが広がるようになる。

館山で列車を降り、駅裏にある間口が小さくて柱が傾きかけているような食堂で、早い昼食をとった。その食堂では、漁から上がってきたばかりだろう漁師たちが、朝からお酒を飲んでいた。みんな、親切だった。親子どんぶりを注文しただけなのに、わたしたちのテーブルは、お刺身やてんぷらで溢れてしまった。他のお客たちが届けてくれるのである。

館山からさらに、バスで50分ほどの富崎に行った。ここは房総半島の西端に近い。相模湾を隔てて、真西は伊東くらいになるのだろう。

宿は、郵便局も兼業している民宿だった。宿舎に荷物を置くと、すぐに釣りに出掛けた。防波堤の先端にある赤灯台が、わたしの漁場だ。まだ水温が低いのに、それまでにわたしが見たこともないような魚がよく釣れ

た。大きなうつぼも釣った。底がスキン・ダイビング向きの岩場なので、よく根掛かりをした。ずいぶん仕掛けを失ったものだ。

漁果に満足して防波堤を戻ると、西側には布良の浜。打ち上げられた海藻を踏みながら、浜を散歩した。沖を眺めると、小波が夕陽を反射して、きらきらと銀色に輝いている。思わず呼吸が止まるほど、美しかった。

遊び疲れて脚は重いんだけど、心は反比例するように軽い。布良の浜に面したところに、雑貨屋が一軒建っていた。こういう土地の雑貨屋だから、食品も売っている。頼むと、じゃがいもだけのコロッケを揚げてくれた。

釣り道具をかかえ、揚げたてであつあつのコロッケを頬張りながら、暗くなりはじめた道を宿に戻る。あんなに美味しいコロッケをいただいたのは、後にも先にもない。☺